



げし
夏至（21日）… 一年間で昼間が一番長い日です …

気温や湿度が上がり、梅雨も本番となりました。ジャガイモも梅雨入りとともに葉が枯れてきて、収穫し頃となりました。それまで、葉っぱの下を住処にしていたカエルくんには、事情を伝えて、新しい隠れ家を探してもらいました。おいしそうなジャガイモが大中小合わせて340個も取れました。ミニトマトやオクラ、枝豆なども大きくなり始めています。

<乃東枯 なつかれくさかる 6月21日~25日>

夏至の初候は「乃東枯」です。この春から夏にかけて、園庭の自然をじっくり観察してきて感じるの、それぞれの植物に一番キラキラと輝く時期があり、それが次々と交代していくということです。タンポポは、4月後半にぐんぐん生長し、花が咲き、それが終わると茎が伸びるとともに白い綿毛になって、種を飛ばし、枯れていく様子までご紹介しました。

この「乃東」は、夏枯草（かごそう）：別名ウツボグサという紫色の花の古い名前だそうです。この時期、花が終わると褐色に変化して枯れたように見えるのだそうです。

<ジャガイモ掘りを通して学ばせたいこと>



幼稚園再開以来、ずっと世話をしてきた年長児にとって、楽しみにしていたジャガイモ掘りでした。素手で掘ることで、土の中から出てきた喜びを手触りとともに実感できたようです。次々と掘った芋が集まって山のようになってきます。たくさんあることは、子どもにとってはそれだけでうれしいことで、何かしたくなるものなのです。

集める、並べる、比べる、分けるなどという思考が行動として自然に生まれてきます。子ども同士がいろいろと考えを出し合った頃合いを見て、担任から卵パックというヒントを示したことで、10個ずつのまとまりにして数えるという体験にたどり着きました。このような実体験が、小学校の算数での思考や理解につながるのです。



ジャガイモは年長児が中心となって芽かきや土寄せなどの世話をしてきました。葉っぱが枯れてきた頃が収穫の目安と言われていました。しばらくこの畑を住処にしていたカエルくんには、申し訳ありませんが、引っ越しをしてもらいました。